幼兒教育に於ける訓練と自由の問題

——第二回保育學會シンポジウム——

司會　高崎能樹

一、自發性の重要性　文部省學校教育局　坂元彦太郎

二、しつけの心理的基礎　東京學政大學教授　山下俊郎

三、訓練と自由　日本女子大學　上村哲彌

司會（高島）これから三人の先生に御願いたしますが、三十分繰入つていますので、御協力御願致します。議論をたたかわせるのでなく、皆で何かよいものを作り上るつもりで、よい結論を得る樣ねがつております。最初に文部省の坂元先生に御意見を述べていただきます。（拍手）

○自發性の重要性

文部省學校教育局　坂元彦太郎

坂元氏——此處へ出て參りますのは不適當なのでございますが、山下先生に引出されて來ましたから、坂元個人の意見をのべさせていただきます。（笑聲）

一般に教育とゆう事も幼兒の教育とゆう事も全面的に伸はしてゆく事が中心で、社會的に一般に社會人として習慣を身につけさせるのだが、我々教育者としてみた場合もその樣に一人一人としてのばしてやりたいものなのであります。人間尊重とゆう所よりのばしてやる事が教育者の立場なら、幼兒の持つているものを自分の力でのばしてやる事もそうであります。子供の持つているもの、自發的な態度が根本的な事は申し上げるまでもありません。自發的、自發性とゆうものは年齢によつても子供によつても種種樣樣違うと思います。例えば、九歳の子と十八歳の子とはちがいます。それぞれ自發の姿が違つていて、絶えずほつたらかしにしているのも良い